

上郷史 目次

上郷町図	
口絵写真	
序文	町長吉川藤雄

序編 自然環境

第一章 上郷の位置	一
-----------	---

第一節 上郷 <small>かみご</small> の名の由来	三
---------------------------------	---

第二節 行政的位置	四
-----------	---

第二章 上郷の地形地質	七
-------------	---

第一節 木曾山地	七
----------	---

第二節 飯田盆地	八
----------	---

一盆地の生成・盆地南部の第三紀層	
伊那層の分布・洪積期の天竜層	
天竜河岸低地・段丘の形成	
扇状地と段丘・上郷の段丘	

第三章 水系	一五
--------	----

第一節 河川……………一五

一、野底川

野底川は松川に上流を奪われた?

野底川の氾濫・松川の氾濫

野底川と別府

二、土曾川

三、天竜川

第二節 地下水と飲用水……………三

一、主な湧水帯

1、山麓扇状地末端

2、黒田段丘崖下

3、低位段丘崖下

二、井戸の深さ

第一 考古編……………二七

はじめに……………二九

第一章 上郷の遺跡……………三〇

第一節 上郷の遺跡の概観……………三〇

第二節 上郷の考古学的調査……………三〇

一、鳥居竜蔵の現地調査

二、下伊那史編纂のための調査

三、中央自動車道用地内及びその周辺地域

の分布調査と発掘調査

四、上郷全域にわたる分布調査

五、高松原遺跡発掘調査

六、其の他の調査

第二章 先土器時代……………四一

第三章 縄文時代の上郷……………四三

第一節 縄文時代の概観……………四三

第二節 縄文時代各期の上郷……………四四

草創期・早期・前期・中期・後期・晩期

第四章 弥生時代の上郷……………五

第一節 弥生時代の概観……………五

波及期・中期・後期・高松原遺跡

第二節 弥生時代の上郷……………五

第三節 集落立地の変化と農耕生活の展開……………五

第五章 古墳時代の上郷……………六

第一節 古墳時代の概観……………六

12、つくね塚(庚申原古墳) 13、宮の

第二節 上郷の古墳……………六

前垣外古墳(護老神社境内の塚)
14、フジ塚

1、門前古墳(鶏足院古墳) 2、天神
塚(雲彩寺の古墳) 3、化石一号墳(血

第三節 上郷の古墳時代の集落……………六

とり場の古墳) 4、化石二号墳

1、丹保A遺跡 2、丹保B遺跡

5、番神塚(北村) 6、溝口の塚(堂

3、飯沼土師器窯跡 4、藪越遺跡

垣外) 7、ドドメキ一号墳 8、賢聖

5、中位段丘上の遺跡 6、姫宮遺跡の

塚(榎戸) 9、中島五号墳 10、藤塚

石製模造品

(中島六号墳) 11、天王原の塚(中井)

第四節 古墳時代の集落と生活の発展……………六

第六章 奈良時代以後の上郷……………六

第一節 奈良時代以後の概観……………六

1、奈良時代 2、平安時代

第二節 奈良時代以後の上郷……………六

3、鎌倉・室町時代

第二 古代・中世編……………九

序 章 地方史の立場 時代区分……………三

一、地方史と中央史

二、時代区分

第一章 古代…………… 五

第一節 古代概観…………… 五

第二節 古代の上郷…………… 六

1、宇沼村麻績の里と座光寺伝説

2、東山道の通過地について

3、古代の上黒田

• 上黒田の水田

• 上黒田出土の灰釉陶器と古鏡

第三節 榑ヶ洞の古代水田と寺屋敷
莊園の發達と武士の發生…………… 二七

莊園の發達と律令國家の頽廃

名主武士の發生

伊那郡の莊園 郡戸庄

農業技術

第二章 中世…………… 二七

第一節 概説…………… 二七

一、鎌倉時代

二、南北朝と室町時代

貨幣流通の拡大と商工業の發達

三、兵農分離の方向へ

一、伊那郡の豪族

小笠原氏 大塔の戦 結城合戦

飯田郷坂西氏

知久氏

二、上郷の諸族と城址

飯沼氏 飯沼城 飯沼城址発掘古銭

原の城 黒田氏 座光寺氏と黒田

古城

第二節 鎌倉時代の上郷…………… 三三

郡戸庄の地頭・庄官

野底大井の開さく

別符

第四節 戦国期、織田・豊臣期の伊那郡…………… 四一

第三節 南北朝・室町時代の上郷…………… 三七

一、武田氏の伊那郡侵略

- 二、織田軍の侵入
- 二、徳川氏の伊那郡支配
- 四、武田・織田・徳川の支配形態

貫高と石高
飯沼郷の分村

第三 近世編

第一章 支配者と土地制度・貢租

第一節 飯田藩の領主

- 一、毛利秀頼
- 二、京極高知
- 三、小笠原秀政
- 四、脇坂安元・安政
- 五、堀氏十二代

七千石加増と一万石減封
さらに二千石召上げ

第二節 土地制度—検地帳の検討

- 一、土地制度の変化—中世から近世へ
- 二、秀吉の検地—天正の太閤検地
- 三、脇坂氏の検地
- 四、検地帳の形式と内容

一五

第三節 年貢と課役

- 五、各村耕地面積・收穫高
- 六、検地帳にみる農民階層
- 七、新田検地・永流改め
- 八、柏原の開発
- 一、初期の年貢—知行者へ
- 二、中期以後の年貢
- 三、小物成
- 四、課役と連上金
- 御城役ほか・江戸御小人勤め
- 運上金
- 五、幕府への貢租
- 国役金 献上胡桃代

二〇三

第二章 村民の構成と支配組織

第一節 村民の構成……………三六

一、初期の役百姓

二、村役人層

別府村長百姓騒動

庄屋

三、五人組

四、年貢高から見た農民階層

五、無高・借屋・地借者

第二節 戸数・人口とその移動……………二四〇

一、宗門帳

記載形式の変化

戸数人口と家族構成

二、住民の移動

村送状 婚姻 出所見届

三、厄介・欠落・勘当・無宿者

第三節 御 触……………二五三

五人組御法度書

御触書

第四節 村定め……………二六一

第五節 村 貫……………二六三

一、南條村の村貫

二、上黒田村の村貫

三、村札

四、上郷貫

第三章 水利と用水井……………二七四

はじめに―農業と水利

第一節 野底川の水利……………二七四

一、大井(三ツ井)

開さく史 野底川一番井の権限 川底

平との水論 井普請 三ツ井灌漑面積

井尻の困苦

二、その他の用水堰

梅ノ木井 鹿島井 ほたる川

川底井 上 井 下 井

善右衛門井 北村井 中 井

半四郎井

第二節 松川の水利……………二七七

天王井 小松原井 八反田井 町張り井

第三節 土曾川の水利……………二八〇

一、沢洞井

二、土曾川太郎井

座光寺次郎井との水論

水溜堤の建設 沢田堤地の交換

井・堤普請と藩の補助

第四節 落ち水による栗沢井……………三三〇

第四章 山 林……………三三三

まえがき

第一節 野底山……………三三三

一、近世入会山の利用形態

二、野底山をめぐる争論

1、天正十六年四か村と別府村の境争い

2、寛永十四年の草場争い

3、明暦三年島田村百姓の入山

4、万治年間座光寺村との争い

5、寛文四年沢洞忠賢山刈敷争い

6、脇坂氏時代の山取締り令

7、延宝五年別府村と四か村の争い

8、貞享三年五か條の訴え

第二節 元禄の山論……………三四三

一、山論の発端

二、江戸出訴

三、訴訟の経過

目 次

沼田余水の利用

第五節 自然湧水の利用……………三三六

第六節 各水系別の農業用水……………三三三

四、訴訟の費用

五、犠牲者、その後

第三節 元禄以後の野底山……………三三八

一、上黒田村対四か村の草場争論

二、掘木鉄砲流し中止願

三、野底山止め木の定め

四、八王子の枯れ木伐取り紛争

五、鍛冶炭焼き運上

六、姫宮森につき上黒田村と四か村争論

七、入会山道に苦しむ別府村

八、野底入会山道作り、丁場定め

九、野底山の口明け通知状

猪の通り番人

第四節 個人持林……………四六六

竹藪

第五章 産 業 四三

第二節 農 業 四三

一、耕地

二、田の作物

三、畑作物

四、肥 料

第二節 商品作物と手工業的副業 四六

一、養蚕と糸引き 南浜島家の養蚕

原六右衛門の業績 蚕種

二、干し柿

三、元 結

四、紙漉き

五、水 車

六、飯沼の機染業

染物業

機織業

七、酒造業

第三節 村の手工業者 四七

第四節 村の商業 四九

振り商人 南條の白木屋

第五節 村の金融 四五

一、土地売買と質地借入金

二、無尽講

落圖無尽 せり無尽

三、裏判帳

四、地主・小作制の発達

領主よりも多い地主得分

第六章 交 通 四六

第一節 助 郷 四六

一、下伊那の助郷変遷

二、助郷組織とその実行方法

三、助郷課役と農民生活

1、農民経済の逼迫 駄賃 人口停滞

2、助郷人足の難渋

3、助郷人足の無頼化

4、助郷出入

5、むすび

第二節 庶民の旅 四七

一、江戸時代の旅

善光寺詣り

金毘羅参り

江戸下り

二、明治初期の旅

草津行

遠州法多山参詣

第三節 中馬……………四九五

一、中馬の発達 宿場との争い

二、飯田町を中心とする商業の発達

第四節 天竜川の交通……………四〇四

一、天竜川利用の交通 管流し、筏、川舟

二、天竜川横断の交通 渡船、橋

第七章 凶作・飢饉と貯穀……………五九

第一節 凶作と年貢減免・拝借米……………五九

第二節 天明の飢饉……………五三

第三節 天保の飢饉……………五四

第四節 備荒貯穀 粃の積替え……………五三

第八章 藩財政の窮乏と農民……………五六

第一節 御用金と家臣の俸禄削減……………五六

第二節 享保の二分増米……………五七

第三節 千人講騒動……………五〇

付 その他の騒動

紙問屋騒動

笠松山騒動

南山一掬

第四節 御定借 御仕送御用達……………五五

第五節 幕末の藩財政……………五六

一、紀州藩からの借入れ金

二、鼎足講

三、藩借入金の後仕末

第九章 明治維新と農村……………五五

第一節 对外防備と冥加上納金……………五五

雞足院梵鐘徴発される

第二節 野組の編成と鉄砲献上	五九
第三節 水戸浪士軍の通行	五〇
第四節 維新の動乱と夫役出動	五六

一、長州征伐不参の事情	
二、飯田藩主大坂警備役を命ぜられる	

第十章 社 寺

.....	六〇
-------	----

第一節 神 社

.....	六〇
-------	----

一、上黒田八幡宮

二、下黒田諏訪神社 明神講

三、護老神社 祭礼 基本財産

四、南條田中八幡宮 五郎宮と伝説

五、飯沼諏訪神社

諏訪上社と飯沼郷 諏訪三役

御柱祭 社宮司

六、八王子神社と姫宮 岩見重太郎伝説

七、田園社と分森社 慶長の棟札

第二節 寺

.....	六〇
-------	----

第十一章 信仰と娯楽

.....	七六
-------	----

第一節 講 社

.....	七六
-------	----

一、飯沼伊勢講

.....	七六
-------	----

二、其他の講社

代々講 金毘羅講
三峰講 秋葉講 太子講

七六

三、東山道総督軍に属し出役

第五節 官軍先鋒隊の伊那谷通過	五一
-----------------	----

第六節 物価騰貴と世直し一撓	五五
----------------	----

「ええじゃないか」の騒ぎ

第七節 二分金騒動	六〇
-----------	----

六〇

一、迦葉山雞足院 江湖会佐原祖田大洞院輪番

二、白雉山雲彩寺 大寂道吾

三、法輪山経蔵寺 山門

四、法隆山太念寺 齊藤家と太子堂

五、光福寺

六、上黒田薬師堂 円光寺 円光寺の位置

七、北條薬師 伊那十二薬師

八、別府薬師

九、高松薬師

一〇、安楽寺

一一、隠 寮

七六

第二節 諸勸化……………七七

御免勸化と相對勸化

第三節 娯楽芸能……………七三

一、祭典芸能 黒田人形

二、其他の娯楽芸能

自演芸能―地芝居 素浄瑠璃 碁

将棋

觀賞芸能―芝居 義太夫 うかれ節

軍談

三、芸能娯楽取締り

第四 近代編……………七三

第一章 明治前半期の地方行政と上郷村……………七五

第一節 地方行政機構の変遷……………七五

一、府県藩三治制

二、廃藩置県

三、戸籍区の設定

四、新しい区制

五、大区小区制

六、第一次上郷村の誕生

七、長野・筑摩兩県合併と郡制施行

八、上郷村四か村に分離

九、四ヶ村連合戸長役場設置

第二節 地租改正……………七六

一、地租改正の意味

二、古い形の貢租―明治七年まで

三、地租改正作業の経過

四、地価修正運動の展開

五、地租改正の費用―農民負担

第三節 開産社……………八〇

第二章 町村制施行以後の上郷村の政治……………八三

第一節 第二次上郷村の成立と推移……………八三

一、成立の経過

二、新村の性格

三、村政の推移

1、明治時代

道路の整備・天竜川原の開田・新役場新築・

学校統一 村財政の内容

2、大正時代

村営電気問題 米騒動対策

野底山入会権解消 村財政の内容

3、昭和戦前期

経済不況対策 経済更正計画と負債整理

戦時体制へ 財政内容 北原阿智之助村長

4、戦後の村政

北原亀二村長

村営診療所―高松病院

村営製材所 教育施設

町村合併と上郷村 三六災害

村営上水道 役場庁舎と村民会館建設

町制施行 小学校改築 財政内容

第二節 村営電気…………… 八六

一、序

二、第一期 伊那電との協定成立まで

三、第二期 協定にもとづく試行期

四、第三期 村営期

五、第四期 村営売渡し以後

第三節 衛生と医療…………… 九六

一、医師

二、医薬

三、伝染病

四、種痘

五、衛生組合―保健協議会

付 火葬場

六、高松病院

1、上郷診療所時代

2、高松病院時代

第四節 消防…………… 九七

一、序

二、制度及び組織 水防団

三、飯田・鼎・上郷組合消防

四、消防費

五、消防設備

六、消防団活動

第五節 兵事…………… 九五

一、徴兵令

二、軍人援護組織

三、在郷軍人会

四、戦没者名簿

第六節 各区の自治運営と共有金穀 …………… 九三

一、各区の自治運営

二、各区有志共有財産—金穀

飯沼区の金穀会計

別府区金穀会計

その他の区金の穀会計

第三章 戸籍・戸数・人口 …………… 一〇一

第一節 明治初期の戸籍 …………… 一〇一

宗門帳記載年齢の誤り

改名命令

無籍者の入籍と付籍

神葬祭への転向

宗教と戸籍の分離

第二節 戸数・人口の推移 …………… 一〇〇

年齢構造

第四章 天竜川原の開拓 …………… 一〇四

第一節 江戸時代の天竜川原 …………… 一〇四

川除け

第二節 明治以後の天竜川原 …………… 一〇二

明治期の川原田地

堤防の建設

上郷・喬木両村境の確定—堤防内川敷の

民有化

川原新田の耕地整理—割り地

第五章 水 利 …………… 一〇三

第一節 竜西一貫水路 …………… 一〇三

第二節 上水道の建設 …………… 一〇四

一、高松水道

二、平和水道

三、高陵中学校への飯田水道導入

四、別府地区への飯田市水道導入

五、村営水道の建設

第六章 野底山の経営 一〇五

はじめに―山林利用の変化

解消 一〇八

第一節 地租改正―山野の官民有区分決定 一〇五

第六節 施業案の編成と実施 一〇七

第二節 野底山規定書の改変 一〇五

第七節 戦後現代 野底山経営の特徴 一〇九

第三節 五平治山の買収 一〇九

一、村財政との関係

第四節 権現山との境界紛争解決 一〇〇

二、直営製材工場その他

第五節 上飯田村東野及び飯田町の入会権

第七章 産 業 一〇七

第一節 産業構造の変遷 一〇七

一、明治初期

四、蔬 菜

綿打の出稼

五、果 樹

養蚕業への傾斜

六、畜 産 一一三

自由企業の気運と大家の没落

第三節 蚕糸業

勸業社

一、養 蚕

二、大正・昭和戦前期

二、蚕種製造

三、戦後現代期

三、製糸業 組合製糸上郷館

第二節 農 業 一一五

一、米 作

第四節 機染業

二、麦 作

一、染物業

三、その他の普通作

第五節 養蠶業 一二〇

二、機織業

第六節 農地の所有状態と経営規模……………二二五

一、明治から昭和戦前の状態

二、戦後の農地改革

第七節 農業技術と肥料の進歩……………二二七

一、農業技術の改良

二、農器具

三、肥料

第八節 農業団体……………二二八

一、勸業会—農会

二、産業組合—農業会—農業協同組合

飯沼信用組合

上郷信用販売購売組合

両産業組合の合併

第九節 商工業の趨勢……………二二九

第八章 交通……………二四〇

一、道路

二、県道飯島飯田線—伊那街道

三、竜西線 付 永代橋

四、竜坂線 付 道路と集落

五、別府線 付 加賀沢橋

六、阿島線—喬木線

七、南條線

八、通学道路 中央線 南線 飯沼線

南條線

九、昭和新道

1、元善光寺停車場松尾線—国道一五三号線

2、桜畑線

3、米ノ原線

第九章 村外への発展……………二六〇

第一節 海外移民……………二六〇

一、北米移民

二、国策と満州移民

三、戦後の移民

第二節 岩手開拓園……………二六六

一、土地確保と入植

二、経営

三、母村との提携連絡

四、結び

第十章 教育

第三節 東京上郷会……………三六一

第三節 中学校……………三〇〇

一、上郷中学校

二、高陵中学校

第四節 青年教育……………三三六

一、農工補習学校

二、青年訓練所

三、青年学校

四、農工技術学校

第五節 社会教育……………三三九

一、公民館

二、図書館

上郷小学校

第十一章 各種団体等……………三五一

第一節 青年団……………三五一

一、火消組と若連

二、青年会—青年団

第二節 婦人会……………三五四

第三節 天理教……………三〇七

第四節 黒田報徳社……………三七五

一、伊那大教会

二、信郷分教会

三、上郷分教会

編纂後記……………三六三